大阪市教

2017年3月2日
VOL. 534

発行　大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700　FAX 6910-7990

学んで、語って、つながった！ 青年フェスタ

2／18（土）、19（日）　箕面観光ホテル

全体会　「民主主義は止まらない！」と熱く語る諏訪原さん

第28回青年フェスタが2月18日、19日に開かれ、500人（大阪市教54人）が参加しました。夕食交流会などで青年とベテラン教職員の交流が進みました。大阪市教の青年は実行委員として大活躍。レポート交流の報告者になりました。先輩も講座の講師になりました。

参加者の声

○私は今、子育て中で、新聞やニュースを見る機会が減っています。でもそれなりに生活ができ、世の中が動いているのに、今危機感を抱いています。若い人もテレビ離れ、政治離れと言われていますが、諏訪原さんのように世の中のこと、これからの日本のことを真剣に考えている若い人が少なからずいることに感動しました。レポート交流では、特別支援学級の講座に参加して、2年目と4年目の先生のレポートを聞きました。取り組みは多様でしたが、今考えるべき共通の課題を見つけることができ、交流し合うことができたので、とても勉強になりました。

（高倉小・川野　梓）

○特別支援を初めて担任しています。一人ひとりの子どもにあった学習が難しく、悩んでいました。青年フェスタに参加し、他市の学校や市内の他の学校と情報交換する中で、システムの違いがあり、それぞれの悩みを交流する中で解決策が見えたり、ベテランの先生にアドバイスをもらえて充実した一日目の分科会でした。二日目は、障がい者手帳について学習しました。手帳の種類やそれぞれの特徴を学ぶことは大事だなと思いました。また、FBMにも参加しました。ボールで様々な学習ができることに驚きました。フェスタに参加してよかったです。来年も参加したいです。

（青年講師）

夕食交流会　会場いっぱいの熱気　交流は夜を徹して

実践講座　市内の青年もレポート報告

○全体会では、元SEALDs・「市民連合」呼びかけ人の諏訪原さんの講演を聞いた。彼の運動の原点は、2013年の特定秘密保護法の成立に端を発する。憲法改正の流れが進むことに危機感を抱き、〝自分たちの方法で〟民主主義をアップデートすることを試みた。政治の中に生活を取り込むと、自分たちの言葉で政治を語ることを意識し、デモのデザイン、イメージを変えた。SEALDs（2015年5月結成）の国会前活動も、国会前を舞台とした戦略を練り、つも国会議員を活動に呼び、協力体制を構築したという。2016年の参議院選挙では32の1人区で2人の生野党統一候補が誕生した。諏訪原氏は「その過程で、従来の市民と政党の関係性が変わった。政党に対して、市民が要求を突きつけ、政党のスタンスを変えさせるという新しい動きが生まれている」と「野党共闘の中で市民の考えも様々であるが、立場の違いを超えてまとまる必要がある」と述べた。私は講演を聞き、憲法改悪、維新市政が画策する都構想（住民投票で否決）、市営地下鉄・バス民営化、学校統廃合、市立幼稚園民営化等の問題に「立場の違いをこえて」連帯して闘っていく必要があることを再認識させられた。

（榎並小・馬場　史章）

道徳　教科化の動きに対して、みんな真剣

ひろげよう！共同を 社会を変えるのはわたしたち

2017春闘宣言集会

〝春いちばんFROM OSAKA大阪市内2017年春闘宣言集会〟が2月22日に開かれ130人が参加し、「語ろう！地域で　広げよう！共同を　社会を変えるのはわたしたち！」と高らかに宣言しました。

講師の冨田宏治関西学院大学教授は、「世界で最も裕福な8人と37億人の資産額が同じになるなど市場原理主義とグローバル化の行きついた先に不寛容とポピュリズムがある。同時に〝俺たちは99％だ！〟のリアリティも高まっている。日本では立憲主義・民主主義・平和主義・個人の尊厳を掲げる市民運動と野党共闘が参議院1人区で11勝した。『構造改革』や『政権交代』に期待を裏切られ大量棄権層が投票した結果。安倍政権破倒の日は近い。2千万の大量棄権層と大政治的対話を進め、打破阪では維新を打ち千り社会を変えようと呼びかけました。」

学校統廃合白紙撤回　チャレンジテスト反対

子どもと教育を維新政治から守れ！

地域から

第7回おおさか・中央区自治体学校「『チャレンジテスト』って何？子ども達の真の幸せを願って」が2月4日に開かれ、子育て中の母親をはじめ60人が参加しました。宮城委員長が「中学統一テスト半数欠席」と報じられたチャレンジテストの教育とは言えない制度の根本問題、小学生3年生から学力経年調査を始めた大阪市の問題を報告しました。（以下、寄せられた感想）

○大阪の学校の問題は相当ひどいと思っていたが、それよりさらに実態はひどくなっていることに驚いた。小学校にテストが始まることに驚異だと思う。○子どもの学力を伸ばすために大阪では全く間違った方法をしていることがわかりました。○お話がとてもわかりやすく地域のママに広げるヒントになりました。○大阪市は「たいへん」だと言われるが、市民共同してよく頑張ってまちを守っている…というお話が印象に残りました。（市立幼稚園民営化反対・生野区学校統廃合反対など）

○あきらめません。希望をもっています。この言葉を肝に！

＊　＊　＊

「防災」から学校統廃合を考える「防災・まちづくりシンポジウム」が2月4日、生野区の「小中一貫」と学校統廃合を考えるつどい実行委員会主催で行われ、地域の町会長、防災リーダー、民生委員など80人が参加しました。

講師の中山徹・奈良女子大教授は、「人口減少を理由に全国的に小学校を減らしているが、狙いは公共施設を減らし、行政サービスを減らすこと。まちづくりを考えていく上で小学校区は市民の日常的な暮らしの最も基本的な単位。防災・避難所としての小学校がなくなるのは深刻。日常的なコミュニティ活動、隣近所のつきあいが、過去の震災の例からも家屋倒壊からの救助につながっている。行政の財産は市民の財産で維持を。まちのことを真剣に考える人がどれだけいるかが決定的」と強調しました。（以下、感想）

○小学校が地域の核ということがよく判りました。○統廃合は即中止し、地域を守ることを最優先にすべきである。地域があって、住民が住んで、学校が存在するという考え方で進めるべきだ。○小学校区を崩すことは、まちを崩していくことにつながり、まちが崩壊してしまうと強く思いました。○小さな学校はつぶす必要はないです。○地域で話し合っていることに大変役に立つ話でした。○防災の基である小学校がなくなれば、その地域住民の防災計画が崩れ、不安感が増大すると思う。○今の区の計画を是非白紙撤回にしてください。

たんぽぽだより　3月

青年フェスタレポート交流会は高学年のクラス作りに参加をしました。青年の取り組みを聞き、その後それぞれの悩みを出し合ったり、交流できました。夕食交流会では仲間とつながり楽しい時間になりました。

実技講座は音楽と算数の講座。どの講座も楽しくて、やってみたいと思う実践をたくさん学びました。

青年フェスタの次は4月のしんかんフェスタです。実行委員を中心に楽しい企画を考えていけたらと思います。今年のしんかんフェスタの記念公演は絵本作家の内田麟太郎さんです。たくさんの青年を誘って一緒に参加して下さい。たくさん学び、つながりましょう。

3月になり、春ももうそこまで。1年が終わろうとしています。学習会や交流会を通して、青年どうしのつながりが持てた1年でした。4月からの新しい出会いを楽しみに、あと少し頑張りましょう！